

家庭系廃食用油の回収拠点を イトーヨーカドーの東京都内全店舗に拡大！ ～25年度までに全店舗に回収拠点を拡大し、累計25トンの回収を目指す～

株式会社イトーヨーカ堂（本社：東京都品川区、代表取締役社長：山本 哲也）は、2024年9月1日（日）より、専用リターナブルボトルを使用した家庭系廃食用油の回収を東京都内の全店舗に拡大いたします。

日本国内では年間約10万トンの家庭系廃食用油が発生しており、そのほとんどが再利用されずに可燃ごみとして廃棄されています。一方で、廃食用油はバイオ燃料やインク溶剤などの原料として活用できる貴重な資源です。

イトーヨーカ堂は、この貴重な資源を有効活用するため、2023年2月に「イトーヨーカドーネットスーパー西日暮里店」にて、ネットスーパーを活用した家庭系廃食用油回収の実証実験を開始。その後、東京都と廃食用油回収促進に関する協定を締結し、都内の3店舗に回収拠点を拡大、さらに、2023年12月にはヨーク店舗での回収も開始しました。現在は、イトーヨーカドーとヨーク合わせて東京都内で計25店舗、全国では計30店舗※1（2024年8月末時点）で回収を実施しており、取り組み開始以来、回収量は専用リターナブルボトル約5,400本相当（2024年8月時点）となりました。

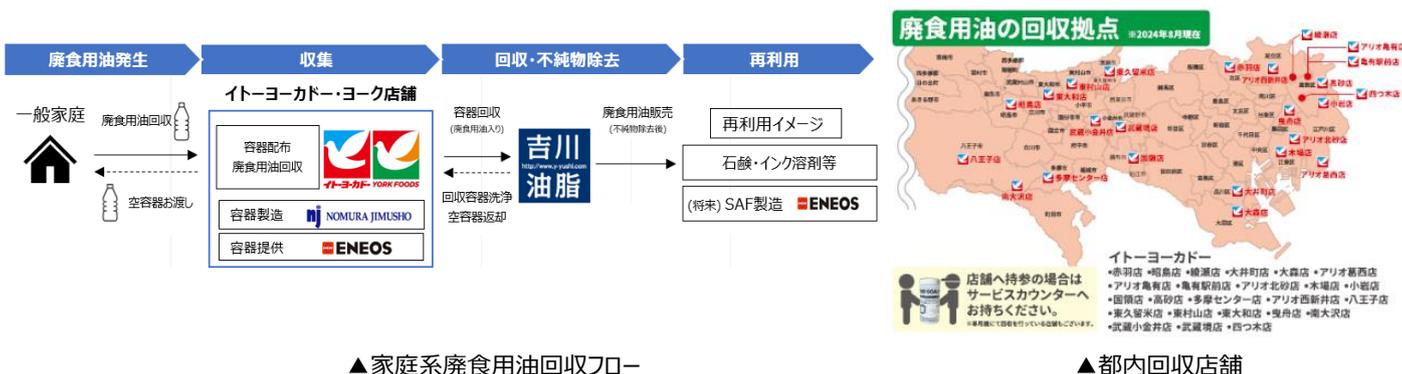
回収された家庭系廃食用油は、回収・リサイクル処理を行う株式会社吉川油脂（本社：栃木県佐野市、代表取締役：吉川 千福）と連携し、石鹼やインク溶剤等の製造に活用することで再利用を進めています。さらに、将来的にはENEOS株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：山口 敦治）と持続可能な航空燃料※2（Sustainable Aviation Fuel、以下「SAF」）の原料として活用することも目指しています。

イトーヨーカ堂は2025年度までにイトーヨーカドーとヨークの全店舗に回収拠点を拡大し、累計25トンの家庭系廃食用油回収を目指します。お客様とともに、身近でわかりやすいリサイクルの仕組みを構築し、CO2排出量の削減と資源循環型社会の実現に向け取り組んでまいります。

※1、全国の拠点数は東京都内と関西エリアを含む拠点数

※2、持続可能な航空燃料（Sustainable Aviation Fuel・SAF）

廃食用油や獣脂などの非化石原料から製造する航空燃料。化石燃料由来の燃料に比べ、温室効果ガスであるCO2排出量を抑えることができる。ENEOS株式会社は2026年の稼働を目指して事業化調査を行うSAFの製造プラントに、家庭系廃食用油を原料の一部として供給することを目指す。



<【専用リターナブルボトル】※株式会社野村事務所によるデザイン・制作>



従来の家庭系廃食用油の回収の多くは使用済みペットボトルにより行われておりましたが、専用リターナブルボトルを使用する事により、洗浄し繰り返し使用することで、ゴミを発生させない取り組みとなっております。

専用リターナブルボトルは店舗のサービスカウンターにて無料で提供しており、お客様にお持ち込みいただいた食用油は、サービスカウンターまたは専用回収器で回収いたします。